

2025 年度 長岡大学シラバス

授業科目名	経済統計学 2 (Economic Statistics 2)					担当教員	太田 恵子 (オオタ ケイコ)	
2020-23 年度 入学者 (20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	資格対応科目 [公務員試験関連 科目] / 知識定着・確認型 A L
	2036-0-23-070	専門科目	選択	2 単位	2 年次	後期		
2024-25 年度 入学者 (24K-25K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	資格対応科目 [公務員試験関連 科目] / 知識定着・確認型 A L
	2436-0-23-009	専門科目	選択	2 単位	2 年次	後期		

① 授業のねらい・概要
経済統計の収集と吟味、経済指数の意義に関する理解のもと、経済現象に統計分析を適用する技法を学ぶ。具体的には、すでに学んだ記述統計の基礎に基づき、標本の分布特性から母集団の特徴を推測する手法を中心に学ぶ。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
情報収集・分析力
③ 授業の進め方・指示事項
すでに学んだ記述統計の基礎に基づき、経済経営における統計的方法の応用に関する実践的な知識と分析力を修得する。E R E（経済学検定試験）の出題科目「統計学」に対応しており、推測統計学に関する基礎的知識を身につけたい。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
経済統計学 1 を履修済みであることが推奨される。
⑤ テキスト(教科書) ※授業で使用する。
小寺平治（最新版）『はじめての統計 1 5 講』（講談社）
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。
滝川好夫（最新版）『文系学生のための数学・統計学・資料解釈のテクニック』（税務経理協会）
⑦ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
講義への出席が基本であり、積み重ねで学ぶので、欠席すると授業内容を理解するのが困難となることを理解してほしい。
⑧ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) 推測統計の基礎を理解 (ii) 現実の社会経済に応用し、データをもとに分析することができる。 (iii) E R E（経済学検定試験）の出題科目「統計学」に対応した基礎的知識を身につけている。

⑨ ルーブリック					
評価基準	S	A	B	C	D
評価項目	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i)推測統計の基礎を理解	記述統計を自力で理解・運用でき、授業内容を超えた学修成果を示している。	記述統計を自ら理解・運用でき、テキスト記載の内容をよく理解している。	記述統計をある程度自力で理解でき、教員等の支援を受ければ運用もできる。	記述統計を十分には理解できないが、教員等の支援を受ければ理解できる。	記述統計を、教員等の支援を受けても理解できない。
(ii)社会経済への応用とデータ分析	授業内容を現実の社会経済に応用し、自力でデータ分析し説明でき、授業内容を超えた学修成果を示している。	授業内容を現実の社会経済に応用し、自力でデータ分析の概要を説明することができる。	授業内容を現実の社会経済に応用し、教員等の支援を受ければデータ分析の概要を示すことができる。	授業内容を現実の社会経済に応用するには不十分だが、教員等の支援を受ければ、理解し説明することができる。	統計学の基礎的知識を、資料等を見ても、さらに教員等の支援を受けても説明することができない。
(iii)統計学の基礎的知識の修得	統計学を深く理解し、資料等に頼らず説明でき、授業内容を超えた学修成果を示している。	統計学の基礎的知識を習得し、資料等に頼らず説明することができる。	統計学の基礎的知識をある程度習得し、資料等を見ながら説明することができる。	統計学の基礎的知識の習得が不十分だが、教員等の支援を受ければ理解することができる。	統計学の基礎的知識を、資料等を見ても、教員等の支援を受けても理解することができない。

⑩ 学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	80%		10%		10%		100%
(i) 記述統計の基礎的理解	80%						80%
(ii) 社会経済への応用分析			10%				10%
(iii) 統計学の基礎的知識					10%		10%
フィードバックの方法	授業への参加・意欲は、課した課題の答えを、学生自らが黒板に書き、教師が質問し、解説する。						

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）	
1	統計学の応用範囲と位置づけ	テキスト pp1 - pp. 2、講義ノートの予習・復習	120 分
2	母集団と標本、推測について	テキスト pp3、講義ノートの予習・復習	180 分
3	推定量と点推定	テキスト pp4 - pp. 7、講義ノート予習・復習	180 分
4	平均値の区間推定（大標本）	テキスト pp8 - pp. 13 例題 2 の予習・復習	180 分
5	平均値の区間推定（小標本）	テキスト pp14 - pp. 19、例題 3 解法の予習・復習	180 分
6	平均値の差の区間推定	テキスト pp28、講義ノートの予習・復習	180 分
7	比率の区間推定	テキスト pp29 - pp. 35、講義ノートの予習・復習	180 分
8	標本の大きさ	テキスト pp44 - pp. 49、講義ノートの予習・復習	180 分
9	検定の手続き	テキスト pp74 - pp. 77、講義ノート、配布統計表の予習・復習	180 分
10	Z 検定	テキスト pp78 - pp. 79、講義ノート、例題 11(1)の予習・復習	180 分
11	t 検定	テキスト pp79 - pp. 81、講義ノート、例題 11(2)の予習・復習	180 分
12	二項検定	テキスト pp83 - pp. 87、講義ノート、例題 12(2)の予習・復習	180 分
13	χ^2 分散の検定	テキスト pp82 - pp. 83、講義ノート、例題 12(1)の予習・復習	180 分
14	χ^2 適合度検定と χ^2 独立性検定	テキスト pp96 - pp. 101、講義ノート、配布統計表の予習復習	180 分
15	まとめ	テキスト pp44 - pp. 49、講義ノート、配布模擬問題の予習・復習復習	240 分

⑫ アクティブラーニングについて
知識定着・確認型 A L を採用する。練習問題の答えを学生が黒板に書き、教員が質問し要点を解説することによって、知識の確認と定着を目指す。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
埼玉県職員（主事）として 4 年余り勤務し、ふるさと埼玉を守る条例に基づき指定した山林等の所有者に対して支払う奨励金に関して、その事務の簡素化・迅速化を図るため、システム仕様書、プログラム仕様書を作成し、これに基づきこの事務の電算システム化を完成させた。
実務経験と授業科目との関連性
講義を展開していく上で、事物を社会システムとしてのとらえ、実務における統計的手法を事例としてとりあげることができる。